

製品名: ACSL6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06535**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	78kDa

抗原情報

遺伝子名	ACSL6
別名	ACSL6; ACS2; FAFL6; KIAA0837; LACS5; Long-chain-fatty-acid--CoA ligase 6; Long-chain acyl-CoA synthetase 6; LACS 6
遺伝子 ID	23305.0
SwissProt ID	Q9UKU0
免疫原	抗血清はヒト ACSL6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 499-548

背景

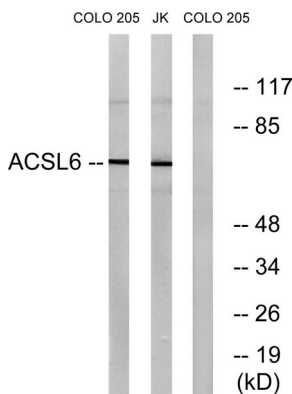
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マグネシウムを補酵素として、脂肪酸、ATP、および CoA からアシル CoA を生成す

る触媒作用をします。このタンパク質は脳における脂肪酸代謝において主要な役割を果たします。ETV6 遺伝子の転座は、好塩基球増加を伴う骨髄異形成症候群、好酸球増加を伴う急性骨髄性白血病、および急性好酸球性白血病の原因となります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 4 月]、触媒活性: ATP + 長鎖カルボン酸 + CoA = AMP + ニリン酸 + アシル CoA、補因子: マグネシウム、発達段階: 赤血球発達の初期段階では発現が低い、網状赤血球では非常に高い。、疾患: ACSL6 に関連する染色体異常は、急性好酸球性白血病 (AEL) の原因となる可能性がある。ETV6 との転座 t(5;12)(q31;p13)。、疾患: ACSL6 に関連する染色体異常は、好酸球増多を伴う急性骨髄性白血病の原因となる可能性がある。t(5;12)(q31;p13)転座と ETV6。、疾患: ACSL6 に関わる染色体異常は、好塩基球増加を伴う骨髄異形成症候群の原因となる可能性がある。t(5;12)(q31;p13)転座と ETV6。、機能: 長鎖脂肪酸を活性化し、細胞脂質の合成と β 酸化による分解を促進する。脳における脂肪酸代謝において重要な役割を果たし、産生されるアシル CoA は脳脂質の合成にのみ利用されると考えられる。、類似性: ATP 依存性 AMP 結合酵素ファミリーに属する。、組織特異性: 主に赤血球前駆細胞、特に網状赤血球、胎児肝臓由来の胎児血球、臍帯血由来の造血幹細胞、骨髄、脳に発現する。、

研究分野

脂肪酸代謝;PPAR;アディポサイトカイン;

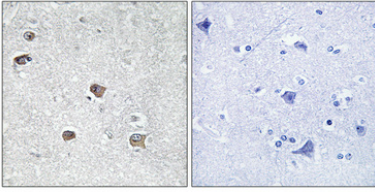
画像データ



ACSL6 抗体を用いた COLO 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ACSL6 ポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。